

# 防災指針の策定

令和4年3月23日(水)

建設部 都市計画課

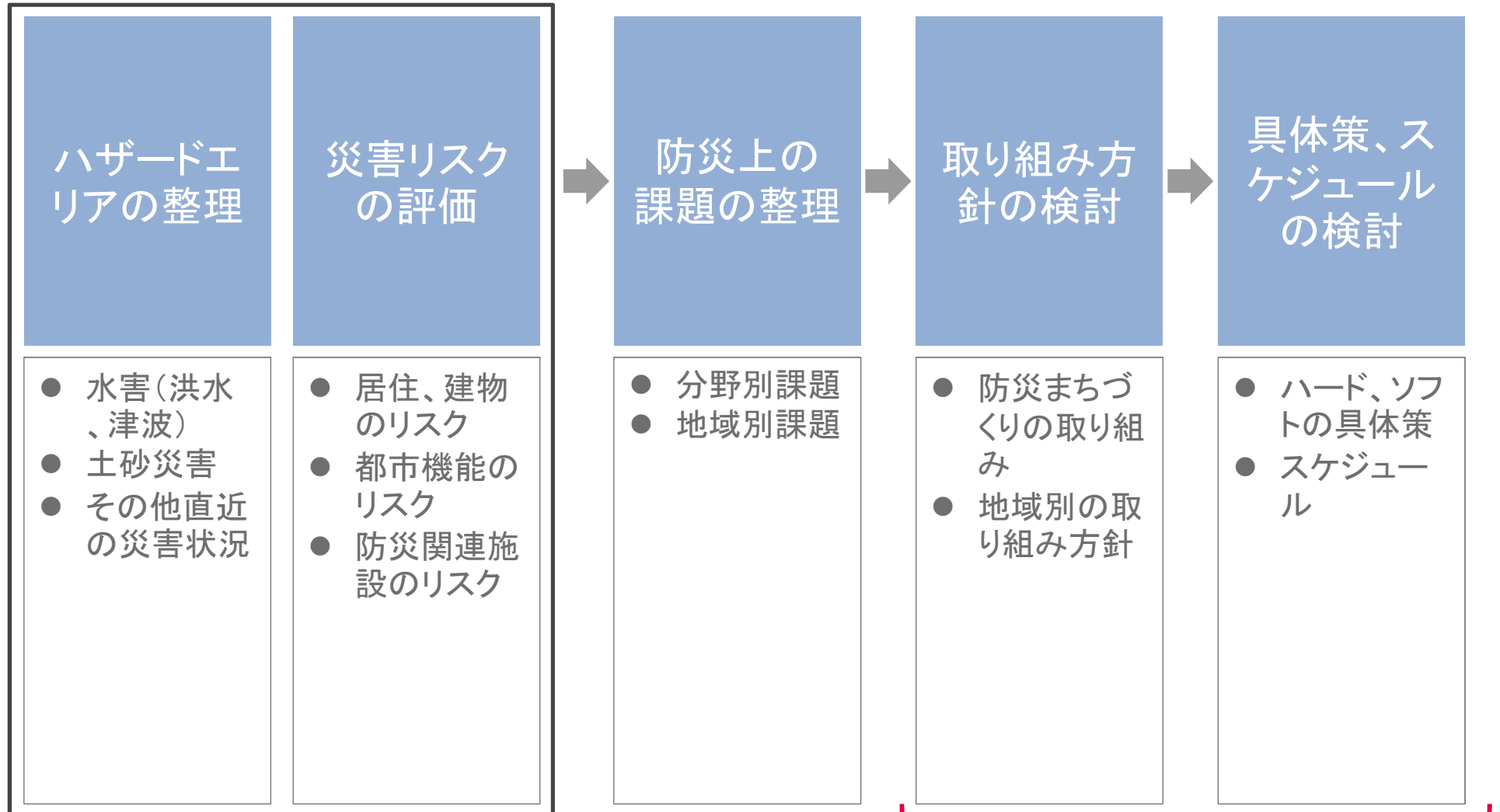
# 目次

---

1. 検討の流れ
2. 災害リスクの整理
3. 取り組み方針の検討

# 1.検討の流れ

## 調査項目



今回の会議での報告範囲

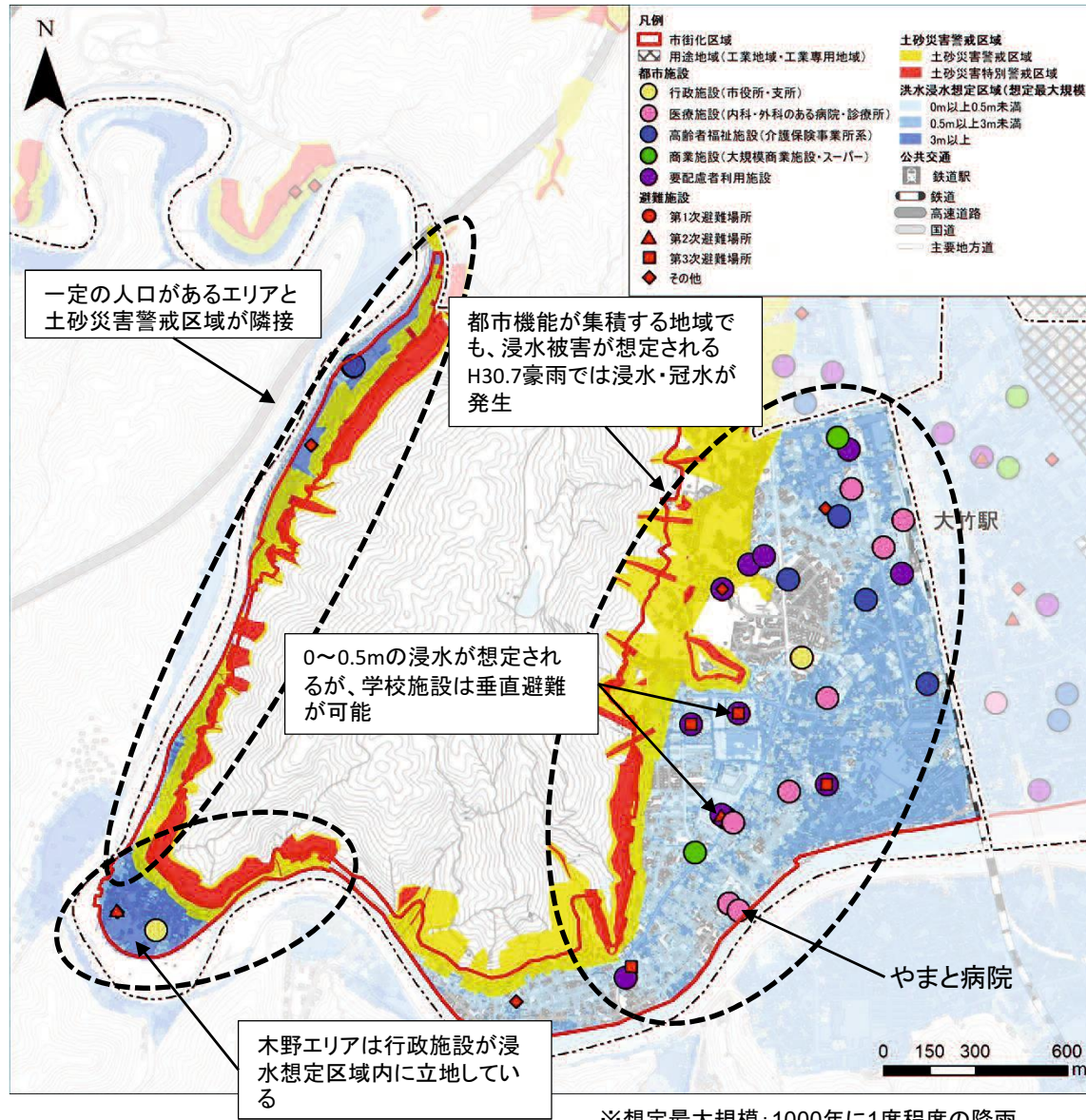
# 目次

---

1. 検討の流れ
2. 災害リスクの整理
3. 取り組み方針の検討

## 2.災害リスクの整理(大竹地域西側)

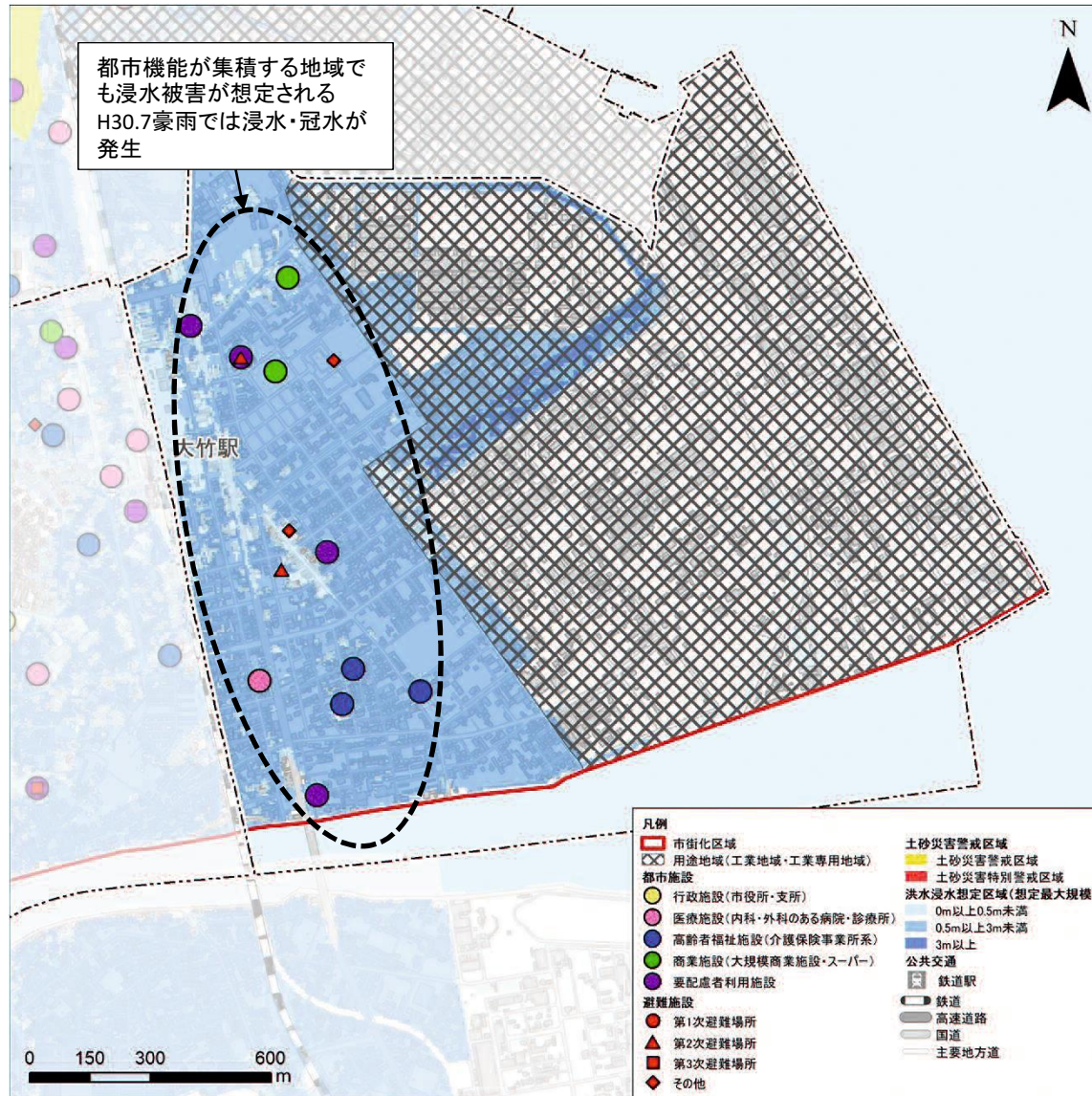
### ■地域別課題



- 大部分が浸水想定区域指定
- 平成30年7月豪雨では浸水・冠水被害が発生
- 都市機能面で見ると、やまと病院や多数の商業施設、要配慮者利用施設などが浸水想定区域内に立地
- 木野エリアは一部5.0m以上の浸水が想定されるほか、土砂災害特別警戒区域が広範囲にわたって広がるなど、災害時に大規模な被害が想定される。

## 2.災害リスクの整理(大竹地域東側)

### ■地域別課題

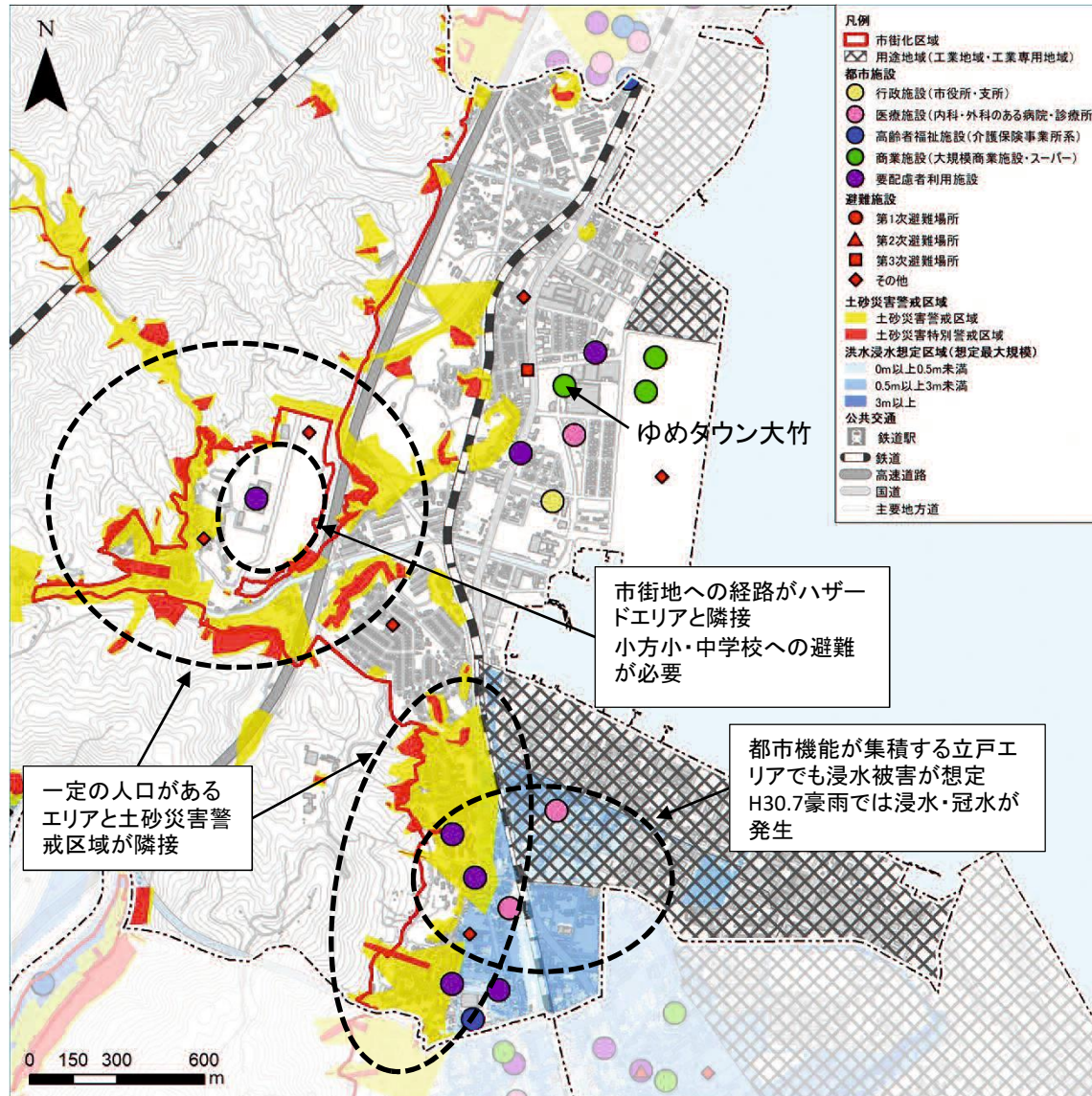


- 西側と比較すると被害は比較的小さいと想定
- ただし、商業施設や要配慮者利用施設の立地する駅周辺は浸水想定区域に位置するため災害時に機能障害に陥る可能性がある

※想定最大規模: 1000年に1度程度の降雨

## 2.災害リスクの整理(小方地域)

### ■地域別課題

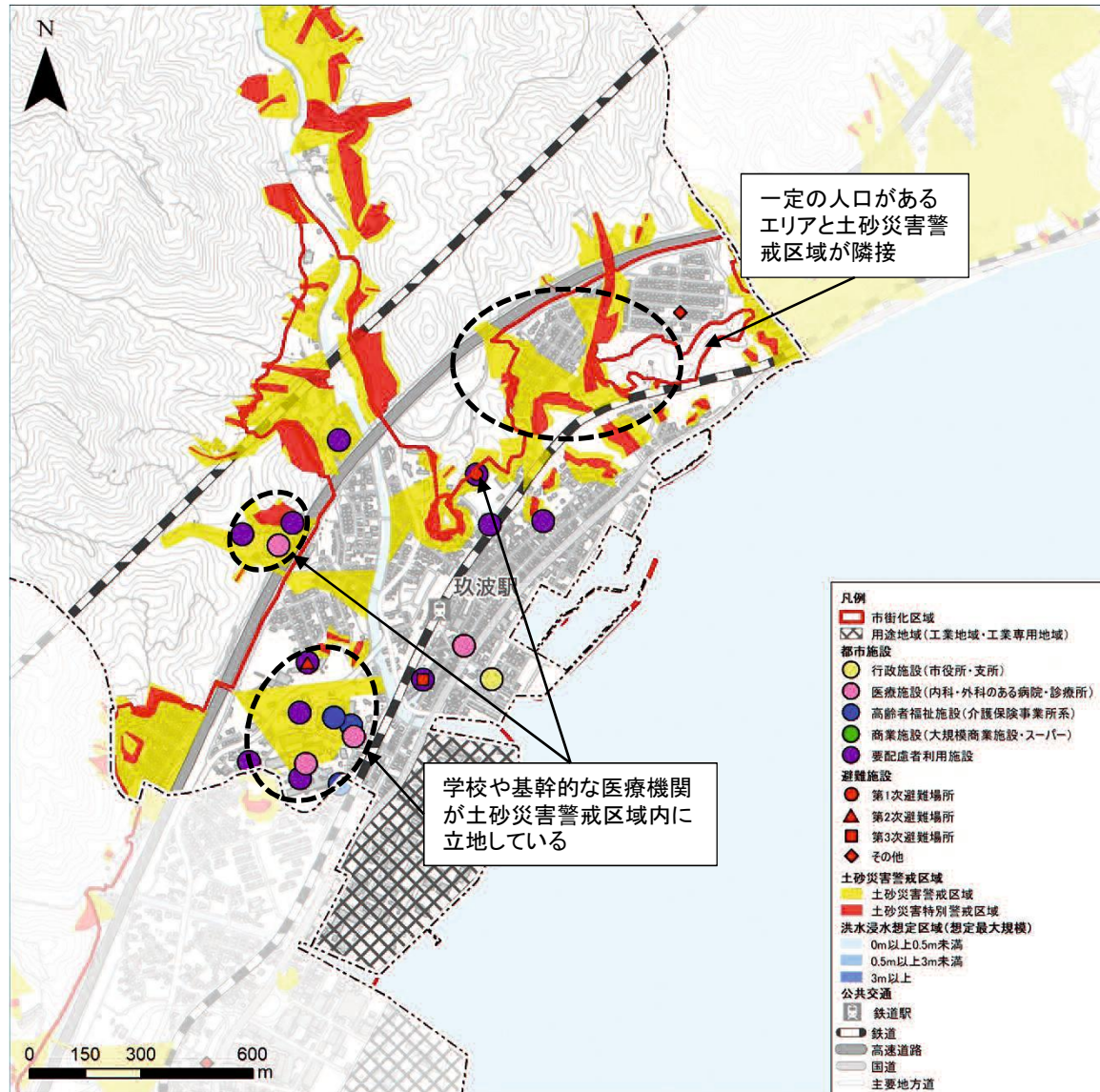


- 南部の立戸エリアが浸水想定区域に指定
- 平成30年7月豪雨では浸水・冠水被害が発生
- 土砂災害警戒区域内には、立戸エリアを除き都市機能は立地していないが、一定数の人口があり、相当の被害が見込まれる
- 市内最大規模の商業施設であるゆめタウン大竹はハザードエリア外であり、避難場所として活用できる

※想定最大規模: 1000年に1度程度の降雨

## 2.災害リスクの整理(玖波地域)

### ■地域別課題

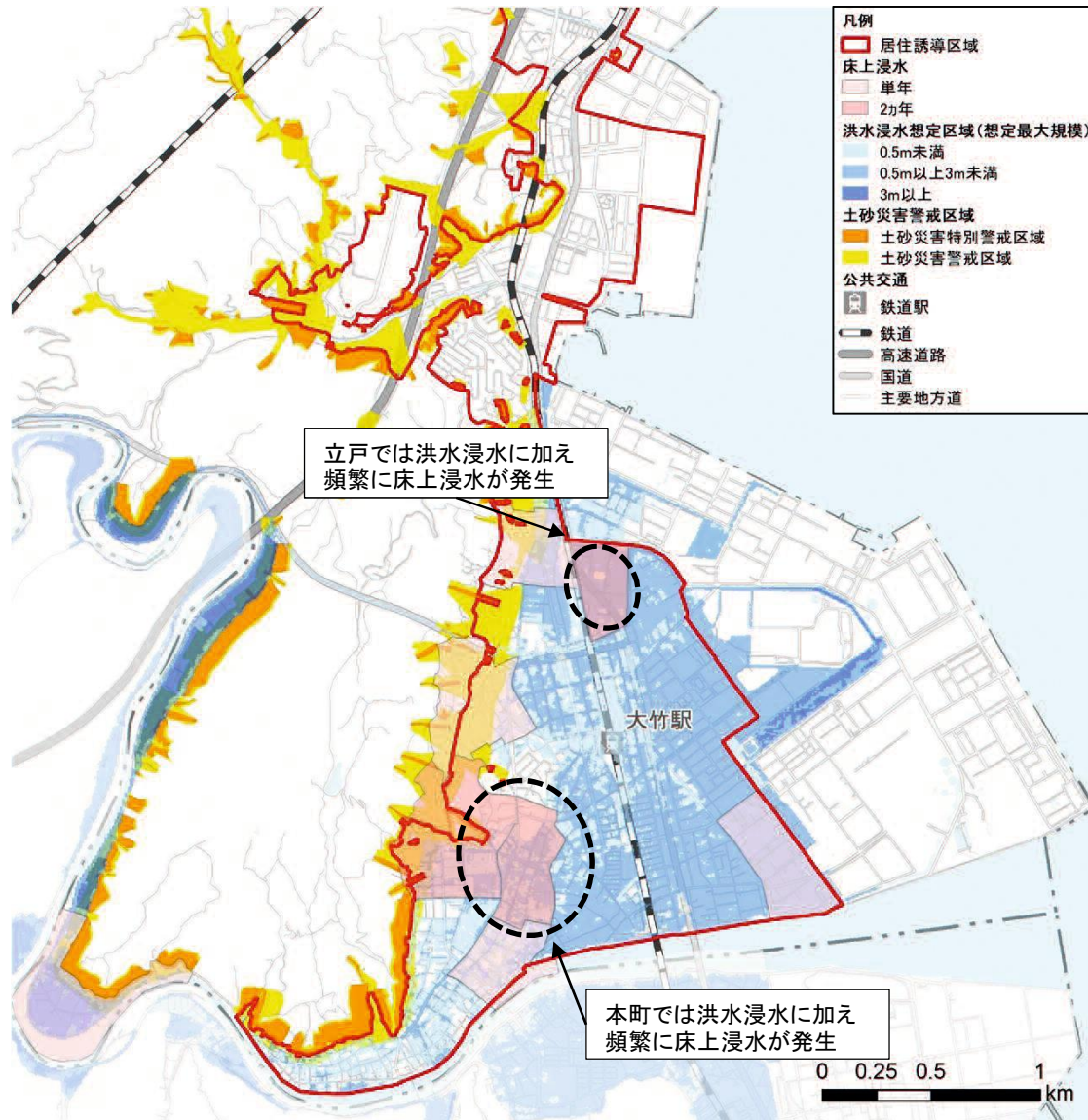


- 水害というよりは土砂災害による被害が想定される
- 特に玖波小学校、広島西特別支援学校、メープルヒル病院、国立病院機構広島西医療センターをはじめとする複数の要配慮者利用施設が土砂災害警戒区域内に立地

※想定最大規模: 1000年に1度程度の降雨



## 2.災害リスクの整理(居住誘導区域)



※想定最大規模: 1000年に1度程度の降雨

- 居住誘導区域の候補地における水災害リスクとして、立戸や本町では洪水浸水に加え床上浸水が頻りに発生

# 目次

---

1. 検討の流れ
2. 災害リスクの整理
3. 取り組み方針の検討
  - ✓ 流域治水の取り組み
  - ✓ 市の取り組み
  - ✓ 市域全体の取り組みとスケジュール

### 3.取り組み方針の検討(流域治水の取り組み)

- 令和元年に発生した東日本台風により、各地で洪水による甚大な被害が発生したことを踏まえ、国土交通省では小瀬川流域の治水対策を推進している
- 各種防災・減災対策により浸水被害を防止するとともに、逃げ遅れゼロを目指す

#### ■小瀬川流域における治水対策

##### ■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

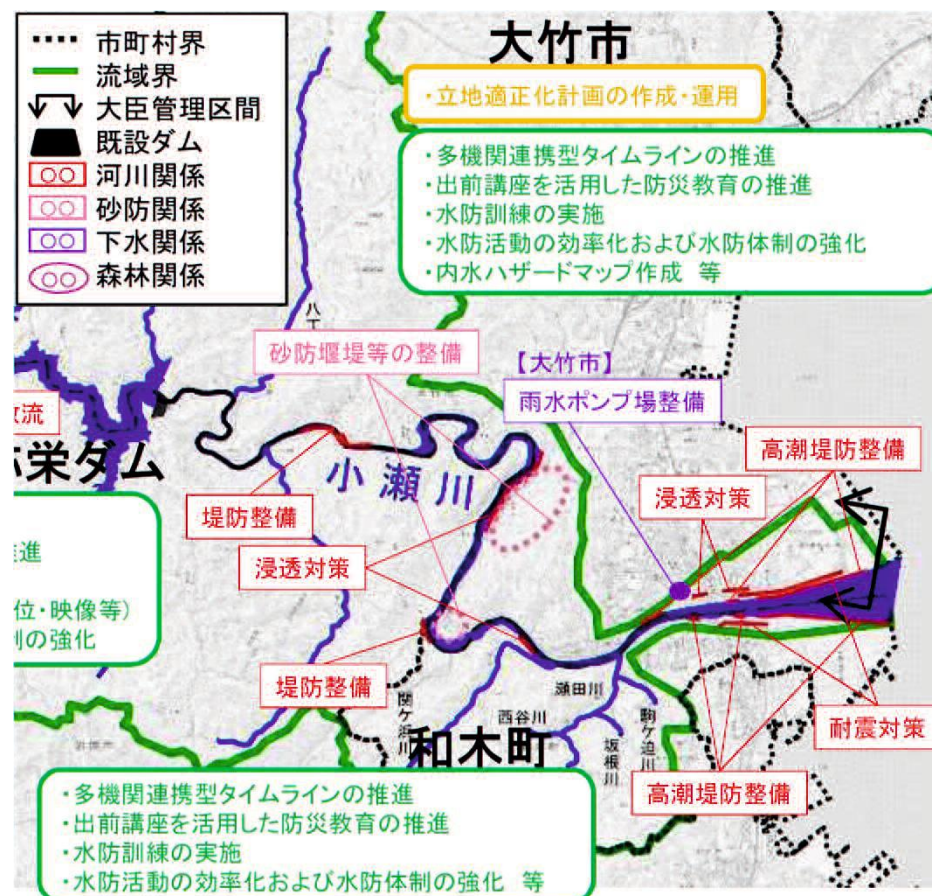
- ・高潮堤防整備、堤防整備、耐震対策 等
- ・雨水幹線・雨水ポンプ場等の整備
- ・森林の整備・保全、治山施設の整備
- ・利水ダム等(弥栄ダム、小瀬川ダム、渡ノ瀬ダム、飯ノ山ダム)における事前放流等の実施、体制構築(関係者:国、県、中国電力(株))
- ・砂防堰堤等の整備
- ・改修を行う農業用ため池について活用を検討 等

##### ■ 被害対象を減少させるための対策

- ・立地適正化計画の作成・運用

##### ■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・多機関連携型タイムラインの推進
- ・出前講座を活用した防災教育の推進
- ・水防訓練の実施
- ・洪水時の河川情報の見える化(水位・映像等)
- ・内水ハザードマップ作成 等



出典:小瀬川水系流域治水プロジェクト(国土交通省)

### 3.取り組み方針の検討(流域治水の取り組み)

- 短期的な対策として、大竹市では立地適正化計画の作成を目指す
- 中長期的な対策として、大竹地区では小瀬川の浸水被害から守る堤防整備等を実施
- また、逃げ遅れゼロを目指した他機関連携型タイムラインの推進や出前講座を活用した防災教育を継続して実施

#### ■プロジェクトロードマップ

区分	対策内容	実施主体	対策工程	
			短期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	広島県大竹市・山口県和木町の工業地帯を高潮浸水被害から守る堤防整備、耐震対策等	太田川河川事務所	大竹地区・和木地区	
	小瀬川の浸水被害からまちを守る堤防整備、堤防強化等	太田川河川事務所	和木地区・小瀬川地区	小瀬川地区 大竹地区 瀬川地区 二本や地区
	雨水幹線・雨水ポンプ場等の整備	大竹市	雨水幹線・雨水ポンプ場等の整備	
	森林の整備・保全、治山施設の整備	森林整備センター、広島県	森林の整備・保全、治山施設の整備	
	利水ダム等(弥栄ダム、小瀬川ダム、渡ノ瀬ダム、笹ノ山ダム)における事前放流等の実施、体制構築	弥栄ダム管理所、広島県、山口県、中国電力(株)、太田川河川事務所	利水ダム等(弥栄ダム)における事前放流等の実施、体制構築	
	砂防堰堤等の整備	広島県	砂防堰堤等の整備	
被害対象を減少させるための対策	立地適正化計画の作成・運用	大竹市	作成中(R2~R4)	運用
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	多機関連携型タイムラインの推進	太田川河川事務所、弥栄ダム管理所、広島県、山口県、大竹市、岩国市、和木町	多機関連携型タイムラインの推進	
	出前講座を活用した防災教育の推進	太田川河川事務所、弥栄ダム管理所、広島県、山口県、大竹市、岩国市、和木町	出前講座を活用した防災教育の推進	
	水防訓練の実施	太田川河川事務所、弥栄ダム管理所、広島県、山口県、大竹市、岩国市、和木町	水防訓練の実施	
	洪水時の河川情報の見える化(水位・映像等)	太田川河川事務所、弥栄ダム管理所、広島県、山口県	洪水時の河川情報の見える化(水位・映像等)	
	水防活動の効率化および水防体制の強化	太田川河川事務所、弥栄ダム管理所、広島県、山口県、大竹市、岩国市、和木町	水防活動の効率化および水防体制の強化	
	内水ハザードマップ作成	大竹市	内水ハザードマップ作成	
	海拔表示物の設置	大竹市	海拔表示物の設置	
	自主防災組織・リーダーの育成	大竹市、岩国市、和木町	自主防災組織・リーダーの育成	



**■事業規模**  
 河川対策 約104億円  
 砂防対策 約290億円  
 【他流域含む広島県全体、R3~7年度】

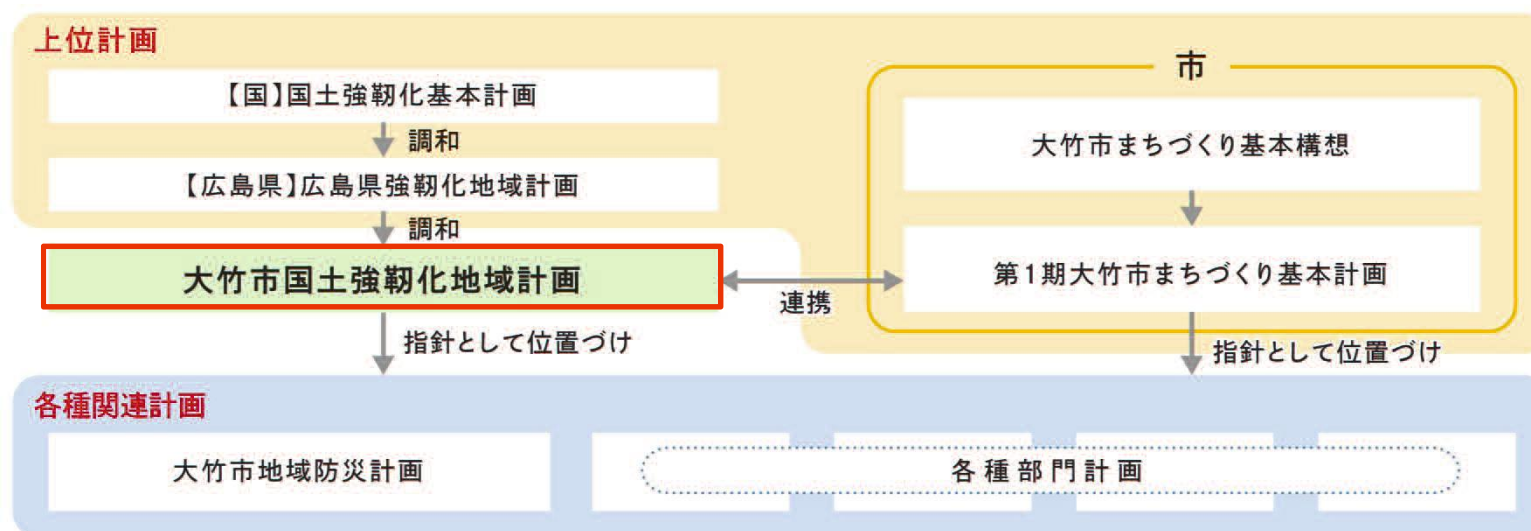
### 3.取り組み方針の検討(市の取り組み)

- 大竹市国土強靱化計画では、南海トラフ地震をはじめとした大災害の課題への対応方策を設定
- 各種関連計画の指針として位置付けることとしており、防災指針策定においても内容を踏まえていく

#### ■防災関連施策一覧

施策名	課題			
	浸水等対策施設の防災性強化	防災への市民意識啓発	関係機関などの危機管理体制の強化	土砂災害等対策施設の防災性強化
【施策3-7】暮らしを支える上下水道の整備	●			
【施策3-8】環境にやさしい持続可能なまちづくり				●
【施策4-1】自然災害やさまざまな危機に強いまちづくり	●	●	●	●

#### ■大竹市国土強靱化計画の位置付け



### 3. 取り組み方針の検討(市域全域の取り組みとスケジュール)

#### ■ 基本理念(大竹市まちづくり基本計画より)

頻発・激甚化する災害やさまざまな危機に対し、市民の意識を高めながら、強くてしなやかな都市基盤の整備を進める

#### ■ 取組方針

➡ ハード対策      ➡ ソフト対策

地域	取組方針		具体的な取組	実施主体	対策工程	
					短期 (~5年)	中長期 (5~20年)
大竹	洪水	氾濫をできるだけ防ぐ・減らす	堤防整備・堤防強化	国	➡	
			雨水幹線・雨水ポンプ場の整備	市	➡	
	土砂		砂防堤防の整備	県	➡	
共通 (大竹、小方、玖波)	洪水	氾濫をできるだけ防ぐ・減らす	暮らしを支える上下水道の整備	市	➡	
	土砂	土砂災害をできるだけ防ぐ	環境にやさしい持続可能なまちづくり	市	➡	
	全般	被害の軽減	自然災害やさまざまな危機に強いまちづくり	市	➡	
	洪水	被害の軽減	多機関連携型タイムライン推進	国県市	➡	
			出前講座による防災教育	国県市	➡	
			水防訓練	国県市	➡	
			洪水時河川情報の可視化	国県	➡	
			水防活動効率化・水防体制強化	国県市	➡	
			内水ハザードマップ作成	市	➡	
			海拔表示物の設置	市	➡	
自主防災組織・リーダーの育成	市	➡				